

宇都宮鳶木遣り 篠井の金堀唄



宇都宮鳶木遣り

木遣りは、重い材木や石材などを運ぶ時に歌われる労働歌です。言い伝えによれば、宇都宮の鳶木遣りは徳川家光の日光東照宮造営と関係が深く、この時、全国から大工や塗師、鳶などが集められました。冬の間は作業が進まないため、宇都宮などに宿泊させました。

この時、彼らの間で歌われていた木遣りが宇都宮の職人に伝えられ、そこに独特な節回しを加わって現在の形になったといわれています。宇都宮木遣り唄は、木遣り唄としてはややテンポの速い中間(ちゅうま)です。ちなみに有名な江戸木遣りは、テンポがやや遅めの大間(おおま)に分類されます。

江戸時代城下町・宿場町として栄えた宇都宮には、鳶職人が数多くいました。町が繁栄するとそれに比例して火災の数も増えますが、当時の宇都宮の火災の多さは江戸の町に次ぐものであったと言われます。このため、明和から天保にかけて宇都宮でも町火消しが編成され、鳶職を中心とした火消し人足が常置されるようになりました。一方、耐火建築として土蔵作りが盛んになり、これらの地固め、心棒づき、上棟などの際に鳶職が木遣り唄を歌い、宇都宮木遣り唄は大いに発展していったようです。

木遣り唄は、「兄」と呼ばれるリーダーがまず一人で歌い上げ、それを受けて大勢の作業員である「側」がつづいて歌い、場を盛り上げます。鳶職の人たちは木遣り唄を歌いながら作業をする



宇都宮市指定無形文化財

ことで、グループの結束も固まり作業の効率もあがったことでしょう。

しかし、江戸時代盛んに歌われた宇都宮木遣り唄も、明治以降は時代の流れとともに次第に歌われなくなり、特に第二次大戦以後は急速に衰えていきました。そこで、宇都宮木遣り唄の伝承を危ぶんだ梁川新三郎氏が、昭和25年宇都宮鳶木遣り保存会を結成し、木遣り唄のほか梯子乗り、纏振りの技も伝承していきます。宇都宮木遣り唄の歌詞はすべて口伝で、「梁川家口伝書」によれば37種あり、ご祝儀、そして不祝儀の時にも歌われています。

また、木遣りという梯子乗りを思い浮かべる方も多いと思います。梯子乗りは、鳶職人たちが準備体操や度胸試しの訓練として行っていたことから、木遣り唄とともに披露されるようになりました。イベントの花形である梯子乗りですが、木遣りの本来の主役は唄であり、江戸の人たちは木遣りの歌声をじっくり聞き入っていたということです。

宇都宮鳶木遣りは、正月に行われる宇都宮の出初式や「宮まつり」などで披露されます。木遣り唄を歌いこなすようになるためにはある程度の年月が必要ですが、積極的に会員も受け入れて、梯子乗りとともに広く市民に伝統の技を伝えています。

みなさんも、木遣り唄の勇壮な歌声に聞き入り、「粋」な江戸の世界を感じてみてはいかがでしょうか。



《木遣り唄》

手古

兄「ヨイヤレエ

てこ おせ」

側「ヨオホオ エシヤネ」

兄「エ ごくろうだ

てこ おせ」

側「ヨオホオ エシヤネ」

兄「エ たのみます

てこ おせ」

側「ヨオホオ エシヤネ」

《 宇都宮鳶木遣りが披露される主なイベント 》

■宇都宮市消防出初式 開催日：1月6日ごろ
場 所：宇都宮城址公園、
二荒山神社前（バンバ通り・大通り）

■ふるさと宮まつり 開催日：8月第一土曜日、日曜日
場 所：大通りほか

《 篠井の金堀唄、草刈唄が披露される主なイベント 》

■ふるさと宮まつり 開催日：8月第一土曜日、日曜日
場 所：大通りほか

■篠井の秋まつり・文化祭 開催日：11月3日
場 所：篠井地区市民センター



平成27年度宇都宮市伝統文化映像記録作成事業

企画・製作：宇都宮市教育委員会
協 力：宇都宮鳶木遣り保存会
篠井の金堀唄・草刈り唄保存会
助 成：文化庁平成27年度文化遺産を活かした地域活性化事業
発 行 日：平成28年3月31日
著 作：宇都宮市教育委員会
連 絡 先：宇都宮市教育委員会文化課
宇都宮市旭1丁目1番5号
TEL.028-632-2764
FAX.028-632-2765

